

## 会 議 録

|                    |       |  |                |
|--------------------|-------|--|----------------|
| 会 議 名<br>(付属機関等名)  |       | 平成 2 8 年度第 1 回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」   |                |
| 事務局(担当課)           |       | 健康福祉部 長寿・介護保険課   |                |
| 開 催 日 時            |       | 平成 29 年 1 月 11 日(水)14:30 ~ 16:00   |                |
| 開 催 場 所            |       | 川西市役所 202 会議室  |                |
| 出<br>席<br>者        | 委 員   | 小田兼三、多久和桂子、野村貴美子、小南一、荻本文人、細見幸己、雪岡健次、田中公宏、南智子、佃義廣、築瀬繁子  |                |
|                    | そ の 他 |  |                |
|                    | 事 務 局 | 根津倫哉、荒崎成治、山本敏行、田中英之、今井ひでみ、山本みどり、山本基二、阪上翔太  |                |
| 傍聴の可否              |       | 可  | 傍 聴 者 数<br>1 人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 |       |  |                |
| 会 議 次 第            |       | 1. 開会<br>2. 川西市介護保険運営協議会の所轄事務及び組織改正について<br>3. 報告事項<br>「配食サービスについて」<br>4. 報告事項<br>「介護予防・日常生活支援総合事業について」<br>5. 報告事項<br>「平成 27 年度 川西市介護保険事業概要について」<br>6. その他<br>7. 閉会 |                |
| 会 議 結 果            |       | 別紙審議経過のとおり   |                |

# 審議経過

## 1. 開会

### 健康福祉部長挨拶

介護保険における生活支援体制整備は、地域包括ケアシステムの構築に向けて、高齢者の方の生活支援や、介護予防サービスを充実させていくために、新しい担い手の養成や、発掘等の地域資源の開発やネットワーク化をおこなうものである。

現在本市では、第1層、第2層という二つの協議体を設置し、この事業に取り組んでいるところである。第1層は、市全体で一つ設けている。それが、この生活支援体制整備部会である。第2層については、川西市内の七つの中学校区の日常生活圏域ごとに、それぞれ一つずつ設けている。

本日お集まりの皆様には、平素から、本市の福祉行政にご協力いただいているところであるが、本日の会議についても、率直な意見をお聞かせいただくことをお願いしたいと考えている。

### 部会長と副部会長の選出

川西市介護保険運営協議会規則第5条第2項に基づき部会長と副部会長を決める。

もともとこの部会の前身である社会福祉審議会高齢者専門部会において、小田委員が部会長を、細見委員が副部会長をされていたので、事務局案として、部会長を小田委員、副部会長を細見委員としたいと推薦する。

異議なしとの声があがったので、川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」の部会長を小田兼三委員、副部会長を細見幸己委員に決定する。

### 部会長挨拶

先日は介護保険運営協議会の全体会があったが、本日は生活支援体制整備部会ということで、細見委員と私で進行させていただくが、皆様の活発な意見交換を期待している。

### 委員の出席確認

委員10名の内、本日10名が出席している。よって川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき、本日の協議会は成立している。

また、傍聴人は来ていないことを確認する。

### 資料の確認

本日配布の以下の書類の確認をおこなう。

平成28年度第1回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」次第  
川西市の後期高齢者（75歳以上）人口と生産年齢（16～64歳）人口の推移  
地域包括ケアシステムの構築について

事前配付の下記資料の確認をおこなう。

川西市生活支援体制整備事業実施要綱

生活支援体制整備に伴う協議体のイメージ図  
協議体の目的・役割等について  
第2層協議体開催会議一覧  
冊子「生活支援コーディネーターと協議体」

## 2. 報告事項

### 「協議体と生活支援コーディネーターについて」

#### 事務局から報告

事務局から別紙資料「地域包括ケアシステムの構築について」、冊子「生活支援コーディネーターと協議体」により説明をおこなう。

#### 質疑応答

問) 第1層についてコーディネーターは市全体に関わることをやり、第2層は七つの中学校区の代表となって、各地域に出向いて協議体の推進をしていくという理解でよろしいか。

答) その通りである。現在、市の職員が第1層と第2層のコーディネーターを兼ねている。第2層については、市の職員が各地域の協議体に出向き、そこに参加するという形をとっている。

問) 第1層の生活支援体制部会の発足により、新しく第2層の協議体ができただけか。または、昔からあったのか。

答) 以前から第2層の協議体があったわけではなく、最近できたものである。実際に会議が始まったのは今年度になってからであり、早いところで今年度の5月や6月からやり始めているという状況である。したがって、第2層設置の時期は地域によって異なっているので、地域によって会議の回数が違う。

問) 第1層の会議はどのような役割なのか。

答) 第2層から出た課題や事例を第1層で情報共有し、今後川西市の中で何が問題なのか、ということ話し合うのが第1層の役割である。

問) 第2層の協議体と地区福祉委員会との連絡や調整はどのようになっているのか。

答) 第2層の中でも今手探りで進んでいる状態である。したがって地域の皆様にお伝えするのはもう少し先であると考えている。ただ、協議体の存在や、現状話し合っている最中であるということは伝えている。

## 3. 報告事項

### 「第1層の役割について」

#### 事務局から報告

事務局から別紙資料「協議体の目的・役割等について」により説明をおこなう。

#### 質疑応答

問) 第1層のメンバー全員が第2層に属し、そこで出た課題や問題をこの場に持ち寄らなくては第1層の意味がないのではないか。

答) 現在、第2層のコーディネーターは市が担っているので、地域の代表という形も兼ねており、第2層で上がってきた課題は資料「第2層協議体 開催会議一覧」に記載のとおり把握することができている。それをこの第1層の場で話し合うような形にしたいと考えている。

問) 第1層、第2層の活動について、介護保険の費用負担の考え方はどのようになっているのか。

答) 地域包括ケアシステムの中で、生活支援、介護予防については現在、介護保険のサービス内ではない。このような隙間の部分を埋めるために、生活支援、介護予防の部分を充実させる。そして、介護保険のサービスとの両輪を使い、高齢者が地域ですっと暮らしていけるように在宅生活を進めることで、介護が進むのを防ぐ。このことで、できる限り施設に入らずに最後まで地域で住んでもらうという介護保険の理念や、さらには介護給付費の抑制も含めた考え方である。

問) 従来の介護保険で使えない部分が増えてきて、生活支援の部分は介護保険がきかなくなった、ということか。

答) そうではなく、見守りやボランティアなど、介護保険の中では使えない部分の補完を、各地域でさらに充実させていくことを目指している。そうすることで、高齢者が地域でもっと暮らしやすくなるにはどうしたらよいかということ、この場で話し合いたいと考えている。

問) トップダウンではなく、住民主体で推進することが重要であると考えているが、第1層と第2層を入れ替えないと、トップダウンになってしまうのではないか。

答) 第1層は、そこで決めたことを地域に下していくという会議ではない。地域の方々がどんなことで困っているのか、こういった高齢者のニーズがあるのか、といったような課題を第2層の協議体でまとめあげたものをボトムアップして、第1層で協議する。その中で、地域では解決できないことや、地域の先進的な良さを市内全体に広げるにはどのようにすればよいかということ、これを話し合う。それを第2層にお知らせし、情報共有し、再度協議していただくということが、この川西市の協議体の在り方であると考えている。

問) 協議体やコーディネーターの活動には、それなりの費用が出てくるが、活動費用はあるのか。

答) 現時点では、活動費用を予算には組んでおらず、この会議の委員の報償費は予算に組み込んでいる状況である。また、第2層についても情報共有の場として考えており、今のところ、活動費としての予算は組んでいない。

問) 第1層は、今後第2層から色々な活動をやりたいという要望が上がった時に、補助金の活用や、予算が取れる、取れないといったことも議論するような会議と捉えていいのか。

答) 第2層から要望が上がってきた活動を、実施するかしないかということを決めるような協議も、今後出てくると考えている。具体例として、第2層の協議体で、サービスBを実施したいという団体等の情報を収集した場合は、市内全体に関わることなので、当然実施するか

否か協議する必要がある。

問) 川西市社会福祉協議会の地区福祉委員会の集まりの場で話し合っていることと、第2層の協議体は重複しないのか。

答) 地区福祉委員は主に小学校区単位で福祉活動をおこなっており、また第2層と福祉委員を兼任している委員もいるので、特に重複はしていないと考えている。

#### 4. 報告事項

##### 「第1層と第2層の関係について」

##### 事務局から報告

事務局から別紙資料「生活支援体制整備に伴う協議体のイメージ図」により説明をおこなう。

##### 質疑応答

問) 第1層におけるコーディネーターの組織的な補完について、詳しく教えていただきたい。

答) 案の段階としては、デイサービスのバスを日中の間コミュニティバスとして使えないかということや、老人会の作品展示会で、素晴らしい作品を作っている方には地域の居場所で講師になってもらったり、また、作品を希望者には購入できる仕組み等を提案できればと考えている。

問) 現在、市の職員がコーディネーターを兼任しているが、コーディネーターの育成は考えているのか。

答) その通りである。住民主体という考え方からずれていってしまうため、市の職員が、いつまでもコーディネーターをするべきではないと考えている。将来的には、第2層については地域からコーディネーターが出てくるようになればと思っている。

問) 第1層の協議体に、第2層のコーディネーターは参加するのか。

答) 委員ではなく、部会員として参加していただく形になっている。

問) そのことによって、各地域のコーディネーターの補完作用がその場で生まれるということによろしいか。

答) その通りである。

問) 生活支援コーディネーターは大きな役割を担っていくことになる。他市では、社会福祉協議会や地域包括支援センターがやっていたり様々な形がある中で、川西市は現在、市の職員がされているが、今後の考え方にいて説明してほしい。

答) 市の職員が生活支援コーディネーターになった経緯として、第2層協議体を設置した当初は、市民の中から代表となり、責任を負っていくのは、すぐには難しいだろうと考えた。そういった考えのもとで、最初は市の職員がおこなうこととなったが、今後については、市民の方や川西市社会福祉協議会の方、地域包括支援センターの職員等がおこなうことも考えられる。どのような形がベストなのかということ、その都度考えていけたらと思っ

ている。

また、今後は高齢者だけではなく、全世代において地域包括ケアを考えていかなければならない。コーディネーターは今後、そういった視点も持たなければいけないと考えている。

問) 今後、地域の方々が主体となって第2層のコーディネーターを担うとなった時、それ以外の活動でもただでさえ忙しい中で、本当に名乗り出してくれるだろうか。

答) 強制的に地域から担っていただくようなことはない。生活支援コーディネーターのやり方は色々あるので、今後は様々なことを考えながらやっていきたい。

問) 第2層協議体の体型について、グリーンハイツと東谷地区以外は新規協議体となっている。その二つの地区に関しては福祉委員定例会の中に第2層協議体を設置するのか。

答) 各中学校区の圏域においては、新規で立ち上げてもいいし、今ある既存の会議を第2層の協議体として置くこともできる。どういう形で進めるか話し合いをしたうえで、グリーンハイツ地区においては福祉委員の定例会の中に、第2層の協議体を設けることになった。また東谷地区についても同じ形である。したがって地域によってまちまちで、柔軟にやっていきたいと考えている。

## 5. 報告事項

### 「第2層の活動報告と課題について」

#### 事務局から報告

事務局から別紙資料「第2層協議体開催会議一覧」により説明をおこなう。

## 6. 報告事項

### 「今後のスケジュールについて」

- ・開催回数は年間1、2回を予定。
- ・開催日程については、第2層の進捗状況をみながら、部会長と相談し決定する。

#### 意見

- ・住民主体で動けるのは、やはり福祉委員会エリアの小中学校区であると考えている。住民主体を尊重できるよう、中学校区にとらわれず柔軟に、エリアやメンバーを選出していただきたい。
- ・予防体操教室や昼食会等を、これまでは各地区でそれぞれやってきたが、今後は市が音頭を取って組織的におこなうことで、しっかりとした助け合いのシステムを作っていけたらと思う。
- ・このような活動を進める中で、介護予防や高齢者が元気で暮らしていくことが先行しすぎて、病気になった時に悪いことをしたと感じてしまったり、介護保険を使うことがいけないという意識が根付いてしまうのは悲しいと思う。
- ・川西市の中でも地域によっては、高齢、少子率は違っている。そういった中で将来の展望を見通せるのもコーディネーターの一つの役割だと感じる。

- ・介護保険制度で 365 日支えるのは不可能であり、その隙間を埋めるものは何かということも、この会議で考えていけたらと思っている。
- ・地域の要望に応えるサービスについて、地域包括ケアだけで賄えない場合には民間の力も利用できないだろうか。そういった組織や団体を把握したり確保することも第 1 層の役割ではないかと感じている。

## 7 . 閉会